

乳児を育児中の親におけるインターネット利用と心理的適応 —批判的思考態度およびウェブアクセスリテラシーの関連—

畿央大学 西 尾 祐美子

Internet Use and Psychological Adaptation among Parents of Infants: The Roles of Critical Thinking Attitude and Web Access Literacy

Kio University, NISHIO, Yumiko

要 約

本研究は、第一子が0～2歳の親（男性73名、女性106名）を対象に、インターネット（以下、ネット）の利用が育児期の心理的適応に及ぼす影響を、批判的思考態度とウェブアクセスリテラシーの観点から検討した。育児に関する相談先・情報源は性別で異なり、母親は友人やネット、父親は配偶者等の家族や「相談しない」を選ぶ傾向が高かった。重回帰分析の結果、認知バイアス耐性が一貫して育児への否定的感情や育児ストレスを低減していた。また、論理的思考への自覚と内容特性の検証は育児への肯定感を高めた一方、発信者特性の検証は負担感やストレスを高めた。批判的思考態度やウェブアクセスリテラシーは親の心理的適応を支えるが、情報の過剰な吟味は逆機能も示すことから、単に情報リテラシーを高める支援を行うのではなく、安心感や信頼関係も支えるバランスのとれた批判的思考態度を養うことの重要性が示唆された。

【キーワード】 批判的思考態度, ウェブアクセスリテラシー, 第一子を育児中の親, インターネット, 心理的適応

Abstract

This study examined how Internet use affects the psychological adaptation of parents raising their first child aged 0–2 years (73 fathers, 106 mothers), focusing on critical thinking attitude and web access literacy. Results revealed gender differences in consultation and information sources: mothers more often relied on friends and the Internet, whereas fathers tended to consult their spouse or family, or not seek advice at all. Multiple regression analyses showed that tolerance for cognitive bias consistently reduced negative parenting emotions and stress. Awareness of logical thinking and evaluation of content features enhanced positive parenting feelings, while excessive scrutiny of information sources increased burden and stress. These findings suggest that critical thinking and web access literacy support parental adaptation but may also have maladaptive effects when overused.

Therefore, fostering a balanced critical thinking attitude—combining analytical evaluation with emotional security and trust—is essential for promoting adaptive Internet use in parenting.

【Keywords】 critical thinking disposition, web access literacy, first-time parents, Internet, psychological adaptation

問題と目的

1. 現代社会における育児とインターネットの利用

現代の日本社会においては、少子化・晩産化の進行とともに、核家族化や地域コミュニティの希薄化が進展している。その結果、従来は祖父母や近隣住民などから得られていた日常的な育児支援や相談機会が失われ、育児環境は大きく変容している（厚生労働省，2023）。一方、インターネット（以下、ネット）は子育て情報の入手、悩みの相談の場として急速に一般化してきた。中島・永井（2020）によれば、育児情報源としてインターネットを利用している母親が9割を超えることが示されている。さらに、ウェブ検索やソーシャル・ネットワーキング・サービス（social networking service: 以下、SNS）は汎用性が高く、育児情報源として利用する優先度や頻度が高くなっている（平松，2024）。

育児におけるネット利用には、授乳などで外出が難しい乳児期においても多様な知見へ即時にアクセスが可能であり、同じ立場の養育者とつながることができるなど利便性が高い。ネットは、親が育児において意思決定を行う際に頼る、重要な支援ツールとなりつつある（Moon et al., 2019）。特に、第一子の乳児の親は、既有的知識や経験が少ないうえ、「良い親」であるべきという重圧から医師などの専門家に情報を求めにくく、ネットの情報を頼る傾向がある（Loudon et al., 2016）。

しかし、誰でも情報を発信できるネットには、専門家の助言から個人の意見・感想まで多様な情報が溢れている。育児情報の過多や他者の育児との比較は、親の心理的不適応にもつながることが指摘されている（外山他，2009）。また、SNSにおける育児情報はアクセス性の高さと引き換えに、誤情報や宣伝の内容に晒されやすく、親の意思決定や感情にも影響しうる（Mertens et al., 2024）。さらに、ネットでの社会的比較は、親の育児における自己効力感の低下やメンタルヘルスの悪化と関連することが示されている（Coyne et al., 2017）。

乳幼児を育児中の親は、年代を問わず疲労感や肩こり、不眠、身体の倦怠感等の不定愁訴が多く、身体的・精神的不調を有することが指摘されている（山西・渡辺，2017）。親の不安や抑うつは、10年以上を経て子どもの情緒的問題につながることが先行研究でも示されている（Walker et al., 2020）ように、親の心理的不適応が子どもの健全な発達に負の影響を及ぼす可能性は否定できない。育児に関する情報源や心理的つながりの場として、ネットを頼らざるをえない親が多くなっている（外山他，2009）ことから、育児に関するネット利用に起因する心理的不適応へのアプローチは重要である。

2. 批判的思考態度とウェブアクセスリテラシー

本研究では、育児に関するネットの利用が、第一子を育児中の親の心理的適応に及ぼす影響因子を

明らかにするため、個人の心理傾向に着目した。ネット上の多様な情報の利用に関連する個人の要因として、批判的思考態度が挙げられる（山本他，2019）。批判的思考とは、自らの推論課程を意識的に吟味する省察的な思考であり、何を信じ、主張し行動するか決定に焦点を当てる思考（Ennis, 1987）を指す。批判的思考態度は、単なる認知能力ではなく、「態度」としての思考スタイルを含む概念である。客観的かつ合理的、多角的に物事を捉える批判的思考態度は、ネット上の育児に関する情報を適切に取捨選択し、活用するために不可欠である可能性が高い。

また、メディアリテラシーは、メディアが形作る「現実」を批判的に読み取るとともに、メディアを使って表現する能力（菅谷，2000）であり、批判的思考の一領域としての側面を持つ。このうち、ウェブアクセスリテラシーは、「検索エンジンなどの情報アクセスシステムを上手く使いながら、情報を批判的に精査し、正確なウェブ情報を収集するための能力」（山本他，2019）と定義される。すなわち、メディアの中でもウェブ使用に関するリテラシーを指す。ネットによる情報の探索と評価のプロセスに焦点が当てられており、批判的思考態度と同様にネット上の育児に関する情報を適切に取捨選択し、活用するうえで重要な役割を果たすことが推測される。

Kusumi et al. (2023) は、福島原発事故によるリスク認知を調査した結果、批判的思考態度がメディアリテラシーを高め、そのことが過度な被災地食品の回避を抑制することを示した。一方、同調査において育児中の親は、放射線の健康への影響に対する不安が高く、被災地食品を回避する傾向が高かった。育児場面においては、「正しい」、「確証のある」情報を求める必要性が強く意識されやすく、このような特異的な批判的思考態度の影響がみられる可能性がある。

3. 本研究の目的

以上を踏まえ、本研究では、第一子を育児中の親が、ネットの利用によって心理的不適応に陥ることを防ぎ、ネットを適応的に利用しながら育児ができるようにするため、親の批判的思考態度やウェブアクセスリテラシーが育児中の心理的適応に与える影響を明らかにし、現代の育児における適切なネット利用についての心理学的知見を得ることを目的とする。また、SNSを含め、育児に関する悩みの相談先や情報源の選択、ネットの利用状況が子どもの年齢や親の性別によってどのように異なるかについても、あわせて検討を行う。なお、本研究は、筆者の所属機関である畿央大学研究倫理委員会より承認を得たうえで実施された（承認番号：R5-50）。

方 法

1. 調査協力者

第一子が乳児（0～2歳）の男性73名（平均33.90歳、SD = 7.11）と女性106名（平均32.14歳、SD = 6.45）を対象とした。第一子は、平均0.92歳（SD = 0.82）であった。

2. 調査手続き

株式会社クロス・マーケティングへの委託により、オンライン調査を実施した。最初に本研究の概要およびプライバシーの保護、研究協力の撤回の自由などに関する説明を画面に提示し、研究協力に同意する方のみ、ネット上でのアンケート調査に回答してもらった。

3. 調査内容

- (1) フェイス項目：回答者の年齢・性別、第一子の年齢について尋ねた。
- (2) 育児に関する悩みの相談先と情報源：配偶者、自分・配偶者の親・祖父母、友人、保育所等、病院、公的機関、インターネット、その他、育児に関する悩みを相談しない、育児に関して悩んだことが／育児に関して情報収集をしたことが一度もない、のうちから主なものを1つずつ選択してもらった。
- (3) ネットの利用状況：主なSNS（Webブラウザ、Instagram、Facebook、X（旧Twitter）、LINE）の利用時間について、1日あたり1時間より短い時間、1日あたり1～2時間、1日あたり2～3時間、1日あたり3時間より多い時間のうちから1つずつ選択してもらった。
- (4) 批判的思考態度尺度（平山・楠見，2004）：「論理的思考への自覚」、「探求心」、「客観性」、「証拠の重視」の計33項目を用いて、批判的思考の態度的側面を測定する。
- (5) ウェブアクセスリテラシー尺度（山本他，2019）：上述の批判的思考態度尺度と重複しない、「内容特性に関連したウェブ情報の信憑性検証戦略」、「ウェブ情報の信憑性判断時に生じる認知バイアスへの耐性」、「ウェブ検索エンジン利用スキル」、「発信者特性に関連したウェブ情報の信憑性検証戦略」の計30項目を用いた。
- (6) 育児への否定的・肯定的感情尺度（荒牧・武藤，2008）：「育児への負担感」、「育て方への不安感」、「育ちへの不安感」、「育児への肯定感」の計16項目から、親の育児に対する感情を測定する。
- (7) 育児ストレスショートフォーム（PS-SF）実用版（荒木他，2005）：「子どもの特徴に関わるストレス」「親自身に関わるストレス」の計19項目から、親の育児ストレスを測定する。

結 果

1. 第一子の年齢や親の性別による、育児におけるネットの利用状況や悩みの相談先、情報源の比較 第一子の年齢による比較

1日あたりのFacebookの利用時間について、 χ^2 検定で有意差が認められた（ $\chi^2(6) = 14.17, p = .028$ ）。調整済み残差の検討により、0歳児の親では「2時間程度」および「4時間以上」の利用が多い傾向がみられ（残差 = +1.62, $N = 14$ ；残差 = +1.64, $N = 7$ ），1歳児の親ではこれらが少ない傾向であった（残差 = -1.34, $N = 1$ ）。

1日あたりのLINEの利用時間についても、有意差が認められた（ $\chi^2(6) = 12.61, p = .050$ ）。0歳児の親では「2時間程度」、「3時間以上」の利用が多く（残差 = +1.48, $N = 25$ ；残差 = +1.38, $N = 8$ ），1歳児では少ない傾向が示された（残差 = -1.05, $N = 2$ ）。

親の性別による比較

悩みの相談先について χ^2 検定を行ったところ、有意差が認められた ($\chi^2(9) = 21.74, p < .01$)。調整済み残差の検討により、男性では「友人」「インターネット」を相談先とする割合が有意に低く (残差 = -1.97, $N = 1$; 残差 = -0.64, $N = 0$)、「相談しない」と回答する割合が高かった (残差 = +2.47, $N = 11$)。一方、女性では「友人」「インターネット」が多く (残差 = +1.64, $N = 13$; 残差 = +0.53, $N = 1$)、「相談しない」は少なかった (残差 = -2.05, $N = 2$)。

情報源についても有意差が認められた ($\chi^2(11) = 28.03, p < .01$)。男性では「配偶者」や「家族」が多く (残差 = +2.13, $N = 37$; 残差 = +0.93, $N = 1$)、「インターネット」「書籍」が少ない傾向であった (残差 = -1.57, $N = 9$; 残差 = -1.49, $N = 3$)。女性では逆に「インターネット」「書籍」が多く (残差 = +1.30, $N = 28$; 残差 = +1.24, $N = 14$)、「配偶者」「家族」が少なかった (残差 = -1.77, $N = 27$; 残差 = -0.77, $N = 2$)。

さらに、1日あたりの Instagram 利用時間についても有意差が認められた ($\chi^2(3) = 13.11, p < .01$)。男性では「1時間未満」が多く (残差 = +1.72, $N = 55$)、「2時間程度」が少なかった (残差 = -1.95, $N = 10$)。女性では「2時間程度」が多い傾向が示された (残差 = +1.62, $N = 35$)。

また、1日あたりの LINE 利用時間においても有意差が認められた ($\chi^2(3) = 9.61, p = .022$)。男性では「3時間以上」の利用が多く (残差 = +2.04, $N = 10$)、「2時間程度」が少なかった (残差 = -1.11, $N = 15$)。一方、女性では「2時間程度」が多く (残差 = +0.93, $N = 34$)、「3時間以上」が少なかった (残差 = -1.69, $N = 3$)。

2. 批判的思考態度とウェブアクセスリテラシーによる、育児に対する感情、育児ストレスの予測

親の批判的思考態度とウェブアクセスリテラシーを説明変数、親の育児に対する感情、育児ストレスを目的変数とする重回帰分析を行った (表 1)。

育児への否定的感情について、「負担感」におけるモデル全体は有意であった ($R^2 = .24, F(7, 171) = 7.82, p < .001$)。個別の予測因子では、「発信者特性の検証」が有意な正の予測因子であり ($\beta = .30, p = .002$)、「認知バイアス耐性」が有意な負の予測因子であった ($\beta = -.36, p < .001$)。また、「育て方への不安感」($R^2 = .19, F(7, 171) = 5.60, p < .001$) および「育ちへの不安感」($R^2 = .20, F(7, 171) = 5.97, p < .001$) においても、「認知バイアス耐性」のみが有意な負の予測因子であった (それぞれ $\beta = -.38, p < .001$; $\beta = -.41, p < .001$)。

育児への肯定的感情の「肯定感」について、モデル全体が有意であった ($R^2 = .41, F(7, 171) = 16.82, p < .001$)。「論理的思考への自覚」($\beta = .22, p = .030$)と「内容特性の検証」($\beta = .27, p = .010$)は肯定感を高める有意な予測因子であったが、「発信者特性の検証」($\beta = -.24, p = .005$)および「認知バイアス耐性」($\beta = -.17, p = .010$)は肯定感を低下させる方向に有意であった。

子どもの特徴に関するストレスについて、「問題認知」($R^2 = .27, F(7, 171) = 9.19, p < .001$)では、「発信者特性の検証」($\beta = .39, p < .001$)が正の予測因子、「認知バイアス耐性」($\beta = -.36, p < .001$)と「内容特性の検証」($\beta = -.27, p = .021$)が負の予測因子であった。「育てにくさ」(R^2

$= .24, F(7, 171) = 7.52, p < .001$)においても,「発信者特性の検証」($\beta = .28, p = .004$)と「認知バイアス耐性」($\beta = -.36, p < .001$)が有意であった。

親自身に関するストレスについて,「子育て負担感」($R^2 = .21, F(7, 171) = 6.36, p < .001$)では,「発信者特性の検証」($\beta = .31, p = .002$)と「認知バイアス耐性」($\beta = -.30, p < .001$)が有意な予測因子であった。「夫婦関係」($R^2 = .12, F(7, 171) = 3.32, p = .002$)についても,「発信者特性の検証」($\beta = .23, p = .025$)と「認知バイアス耐性」($\beta = -.25, p = .002$)が有意であった。

表 1 説明変数を批判的思考態度, ウェブアクセスリテラシー, 目的変数を育児に対する感情, 育児ストレスとした重回帰分析

目的変数	説明変数	β	SE	95%CI	R ²
育児への 否定的感情: 負担感	批判的思考態度: 論理的思考への自覚	-0.01	0.12	[-0.24, 0.22]	0.24***
	批判的思考態度: 探求心	-0.14	0.13	[-0.4, 0.12]	
	批判的思考態度: 客観性	-0.19	0.11	[-0.39, 0.02]	
	批判的思考態度: 証拠の重視	0.14	0.11	[-0.07, 0.36]	
	ウェブアクセスリテラシー: 内容特性に関連したウェブ情報の信憑性検証戦略	-0.12	0.12	[-0.35, 0.11]	
	ウェブアクセスリテラシー: 発信者特性に関連したウェブ情報の信憑性検証戦略	0.3	**	0.1 [0.11, 0.49]	
育児への 否定的感情: 育て方への 不安感	ウェブアクセスリテラシー: ウェブ情報の信憑性判断時に生じうる認知バイアスへの耐性	-0.36	***	0.07 [-0.51, -0.21]	0.19***
	批判的思考態度: 論理的思考への自覚	-0.15	0.12	[-0.39, 0.08]	
	批判的思考態度: 探求心	0.09	0.14	[-0.18, 0.36]	
	批判的思考態度: 客観性	-0.02	0.11	[-0.24, 0.19]	
	批判的思考態度: 証拠の重視	-0.06	0.11	[-0.28, 0.16]	
	ウェブアクセスリテラシー: 内容特性に関連したウェブ情報の信憑性検証戦略	0.17	0.12	[-0.06, 0.41]	
育児への 否定的感情: 育ちへの 不安感	ウェブアクセスリテラシー: 発信者特性に関連したウェブ情報の信憑性検証戦略	-0.02	0.1	[-0.22, 0.17]	0.2***
	ウェブアクセスリテラシー: ウェブ情報の信憑性判断時に生じうる認知バイアスへの耐性	-0.38	***	0.08 [-0.53, -0.23]	
	批判的思考態度: 論理的思考への自覚	-0.11	0.12	[-0.34, 0.13]	
	批判的思考態度: 探求心	0.05	0.14	[-0.22, 0.31]	
	批判的思考態度: 客観性	-0.11	0.11	[-0.33, 0.1]	
	批判的思考態度: 証拠の重視	0	0.11	[-0.22, 0.23]	
育児への 肯定的感情: 肯定感	ウェブアクセスリテラシー: 内容特性に関連したウェブ情報の信憑性検証戦略	0.1	0.12	[-0.13, 0.34]	0.41***
	ウェブアクセスリテラシー: 発信者特性に関連したウェブ情報の信憑性検証戦略	-0.01	0.1	[-0.2, 0.19]	
	ウェブアクセスリテラシー: ウェブ情報の信憑性判断時に生じうる認知バイアスへの耐性	-0.41	***	0.08 [-0.56, -0.26]	
	批判的思考態度: 論理的思考への自覚	0.22	*	0.1 [0.02, 0.43]	
	批判的思考態度: 探求心	0.14	0.12	[-0.08, 0.37]	
	批判的思考態度: 客観性	0.17	0.09	[-0.01, 0.35]	
PS-SF (子どもの特 徴に関わる ストレス): 問題認知	批判的思考態度: 証拠の重視	0.01	0.1	[-0.18, 0.2]	0.27***
	ウェブアクセスリテラシー: 内容特性に関連したウェブ情報の信憑性検証戦略	0.27	*	0.1 [0.06, 0.47]	
	ウェブアクセスリテラシー: 発信者特性に関連したウェブ情報の信憑性検証戦略	-0.24	***	0.08 [-0.41, -0.07]	
	ウェブアクセスリテラシー: ウェブ情報の信憑性判断時に生じうる認知バイアスへの耐性	-0.17	*	0.07 [-0.3, -0.04]	
	批判的思考態度: 論理的思考への自覚	-0.1	0.11	[-0.33, 0.12]	
	批判的思考態度: 探求心	0.06	0.13	[-0.19, 0.31]	
PS-SF (子どもの特 徴に関わる ストレス): 育てにくさ	批判的思考態度: 客観性	-0.18	0.1	[-0.39, 0.02]	0.24***
	批判的思考態度: 証拠の重視	-0.04	0.11	[-0.25, 0.17]	
	ウェブアクセスリテラシー: 内容特性に関連したウェブ情報の信憑性検証戦略	-0.26	*	0.1 [-0.49, -0.04]	
	ウェブアクセスリテラシー: 発信者特性に関連したウェブ情報の信憑性検証戦略	0.39	***	0.09 [0.21, 0.57]	
	ウェブアクセスリテラシー: ウェブ情報の信憑性判断時に生じうる認知バイアスへの耐性	-0.36	***	0.07 [-0.51, -0.22]	
	批判的思考態度: 論理的思考への自覚	-0.13	0.12	[-0.36, 0.1]	
PS-SF (親自身に 関わる ストレス): 子育て負担感	批判的思考態度: 探求心	-0.07	0.13	[-0.33, 0.19]	0.21***
	批判的思考態度: 客観性	-0.15	0.11	[-0.36, 0.05]	
	批判的思考態度: 証拠の重視	0.04	0.11	[-0.17, 0.26]	
	ウェブアクセスリテラシー: 内容特性に関連したウェブ情報の信憑性検証戦略	-0.01	0.12	[-0.24, 0.22]	
	ウェブアクセスリテラシー: 発信者特性に関連したウェブ情報の信憑性検証戦略	0.28	**	0.1 [0.09, 0.47]	
	ウェブアクセスリテラシー: ウェブ情報の信憑性判断時に生じうる認知バイアスへの耐性	-0.36	***	0.08 [-0.51, -0.21]	
PS-SF (親自身に 関わる ストレス): 夫婦関係	批判的思考態度: 論理的思考への自覚	-0.1	0.12	[-0.34, 0.13]	0.12**
	批判的思考態度: 探求心	0.02	0.13	[-0.25, 0.28]	
	批判的思考態度: 客観性	-0.09	0.11	[-0.3, 0.12]	
	批判的思考態度: 証拠の重視	0.03	0.11	[-0.19, 0.25]	
	ウェブアクセスリテラシー: 内容特性に関連したウェブ情報の信憑性検証戦略	-0.05	0.12	[-0.28, 0.19]	
	ウェブアクセスリテラシー: 発信者特性に関連したウェブ情報の信憑性検証戦略	0.31	**	0.1 [0.12, 0.51]	
PS-SF (親自身に 関わる ストレス): 夫婦関係	ウェブアクセスリテラシー: ウェブ情報の信憑性判断時に生じうる認知バイアスへの耐性	-0.3	***	0.08 [-0.45, -0.15]	0.12**
	批判的思考態度: 論理的思考への自覚	-0.08	0.12	[-0.32, 0.17]	
	批判的思考態度: 探求心	0.12	0.14	[-0.16, 0.4]	
	批判的思考態度: 客観性	-0.06	0.11	[-0.28, 0.17]	
	批判的思考態度: 証拠の重視	-0.11	0.12	[-0.35, 0.12]	
	ウェブアクセスリテラシー: 内容特性に関連したウェブ情報の信憑性検証戦略	-0.09	0.13	[-0.33, 0.16]	
夫婦関係	ウェブアクセスリテラシー: 発信者特性に関連したウェブ情報の信憑性検証戦略	0.23	*	0.1 [0.03, 0.44]	
	ウェブアクセスリテラシー: ウェブ情報の信憑性判断時に生じうる認知バイアスへの耐性	-0.25	**	0.08 [-0.41, -0.09]	

注. β は標準化回帰係数, SE は標準誤差, CI は 95% 信頼区間を示す。* $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$

考 察

1. 乳児の親によるネット利用と相談行動の特徴

本研究では, 第一子の年齢および親の性別によって, ネット利用や相談先, 情報源に差異がみられた。まず, 第一子が 0 歳である親は, Facebook や LINE の利用時間が長い傾向を示した。これは, 乳児期特有の育児負担により在宅時間が長く, ネットでの情報探索や交流に依存する度合いが高いこ

とを反映していると考えられる。一方、1, 2 歳児の親は、育児リズムの安定や外出機会の増加に伴い、ネットの利用時間が相対的に減少する可能性がある。先行研究でも、産後初期の母親は SNS を通じて同じ境遇の他者とつながることに安心感を得る一方、時間経過とともに利用が減少することが示されている (Bartholomew et al., 2012)。

親の性別による比較では、男性は「相談しない」と回答する割合が高く、悩みの相談先も配偶者や他の家族（自身や配偶者の親・祖父母）に限定される傾向が示された。これは、男性が育児不安を外部に表出することへの抵抗感を有すること、また「父親役割」への社会的期待が相対的に弱いことが背景にあると考えられる (Pleck, 2010)。一方、女性は、友人やネットを相談先とし、情報源としてもネットを多用していた。この傾向は、母親が積極的に情報を収集・共有し、ソーシャルサポートを活用しやすいことを反映している (Plantin & Daneback, 2009)。

SNS 利用の詳細を見ると、男性は Instagram 利用が短時間に留まり、LINE は長時間利用する傾向が認められた。これは、男性が広く情報発信・共有するよりも、限られたネットワーク内での連絡手段として活用していることを示唆する。女性では Instagram を長く利用する傾向があり、ビジュアルコンテンツを通じた育児情報の獲得や共感的交流が主な利用目的となっていると考えられる (Davis & Jurgenson, 2014)。

したがって、乳児期の親のネット利用は、子どもの年齢や親の性別と密接に関連しており、母親は情報探索と共感的交流、父親は限定的なネットワークの利用と配偶者への依存が特徴的であった。この知見は、育児支援を考える上で、性別や子どもの年齢に応じた情報提供チャネルの設計や、父親の相談行動を促進する介入が必要であることを示唆している。

2. 親の批判的思考態度、ウェブアクセスリテラシーと育児に対する感情、育児ストレスの関連

本研究より、批判的思考態度およびウェブアクセスリテラシーは、育児に対する感情やストレスに多様な影響を及ぼすことが示された。特に、認知バイアス耐性は、育児への否定的感情や育児ストレスを一貫して低減させる予測因子であった。これは、自身の思考の偏りを認識し、柔軟に修正できる態度が、育児場面での不安や過剰な問題認知を抑制し、心理的適応を促進することを意味する。先行研究においても、認知バイアスへの耐性が高い個人はストレス下でも感情調整を保ちやすいことが報告されており (Kahneman, 2011)、本研究結果はその知見を育児領域に拡張するものである。

一方、発信者特性の検証は、負担感や子育てストレスを高める予測因子として作用した。これは、情報発信者の信頼性を過度に吟味することが、かえって情報収集の負担感を増大させ、育児不安を助長している可能性がある。特に、育児情報は匿名性の高い SNS や掲示板などから得られることも多く (Lupton, 2016)、情報発信者の意図や立場を常に疑いながら利用することは、安心感よりも不確実性を強調する方向に働くのかもしれない。したがって、情報の真偽を適切に見極める力が、常に心理的適応に直結するわけではなく、情報探索行動が新たなストレス源となることが示唆される。

さらに、論理的思考への自覚、内容特性の検証が肯定的感情を高める一方で、同じく情報を吟味する行動の一部である発信者特性の検証が肯定感を低下させるなど、批判的思考態度とウェブアクセス

リテラシーの作用は一様ではなかった。この点は、批判的思考が「適応的に働く側面」と「過剰に働くことで逆機能する側面」を併せ持つことを示すものである。育児文脈では、論理的に考えて情報を整理することはポジティブな育児感情につながるが、発信者への不信を強調する過度な批判性は、かえって育児における喜びや自信を削ぐリスクがあると考えられる。

総じて、批判的思考態度やウェブアクセスリテラシーは、親の心理的適応にとって重要な資源である一方、その影響は必ずしも一方向的ではないことが明らかとなった。今後の支援においては、単に情報リテラシーを高める教育を行うのではなく、バランスのとれた批判的思考態度を養うこと、すなわち情報の吟味と同時に安心感や信頼関係を支えるスキルを併せて育成することが必要であるといえる。

3. 本研究の限界と今後の課題

本研究にはいくつかの限界が存在する。第一に、調査対象を第一子が0～2歳の親に限定しており、複数の子どもを同時に養育している親の状況（0歳児と2歳児を併せて育てているなど）は想定していない。また、比較対象として3歳以上の子どもを育てる親を含めていないため、本研究で得られた知見が乳児期に特異的な現象であるかについては断定できない。今後は、子どもの発達段階をより広く含めることにより、親の育児に対する感情や育児ストレスの変容過程を精緻に明らかにすることが求められる。

第二に、本研究は横断的デザインに基づいており、批判的思考態度やウェブアクセスリテラシーと育児に対する感情、育児ストレスとの因果関係を直接的に示すことはできない。今後は、縦断的研究を通じて、これらの認知的特性が心理的適応に及ぼすプロセスを明らかにする必要がある。

第三に、本研究で用いた指標はいずれも自己報告式質問紙に依存しており、回答者の主観や社会的望ましきバイアスの影響が否定できない。実際の行動指標（ネットへのアクセスログ）などを組み合わせた検討が望まれる。

さらに、本研究により独自の知見として示された二点についても、今後の課題としたい。第一に、ウェブアクセスリテラシーが必ずしも適応的に作用するわけではなく、発信者特性の検証が過剰に働くことで親の育児ストレスや不安感を高めるといった逆機能的側面が確認された点である。批判的思考態度やウェブアクセスリテラシーを促進する支援においては、情報吟味と安心感のバランスをいかに保つかが重要な課題となる。第二に、父親は「育児に関する悩みを相談しない」と回答した割合が高く、孤立傾向が顕著であった点である。これは、従来の支援研究で十分に焦点化されてこなかった父親の心理的適応課題を浮き彫りにするものであり、今後は父親を対象とした支援の在り方についても検討することが不可欠である。

以上を踏まえ、今後の研究では、(1) 発達段階を広く含んだ縦断的デザインや介入研究を通じて因果関係を検討すること、(2) ウェブアクセスリテラシーの逆機能を考慮したバランスのとれた支援プログラムを開発すること、(3) 父親や子どもが通園していない家庭といった孤立リスクの高い集団に焦点を当てた支援モデルを検討することが求められる。これらにより、批判的思考態度やウェブアク

セスリテラシーと情報活用スキルを育児期の親を対象とした心理的適応支援に結びつける，より実証的かつ実践的な研究の展開が期待される。

引用文献

- 荒牧美佐子・武藤隆(2008)．育児への負担感・不安感・肯定感とその関連要因の違い：未就学児を持つ母親を対象に．*発達心理学研究*，19(2)，87-97.
- Bartholomew, M. K., Schoppe-Sullivan, S. J., Glassman, M., Kamp Dush, C. M., & Sullivan, J. M. (2012). New parents' Facebook use at the transition to parenthood. *Family Relations*, 61(3), 455-469. <https://doi.org/10.1111/j.1741-3729.2012.00708.x>
- Coyne, S. M., McDaniel, B. T. & Stockdale, L. A. (2017). "Do you dare to compare?" Associations between maternal social comparisons on social networking sites and parenting, mental health, and romantic relationship outcomes. *Computers in Human Behavior*, 70, 335-340. <https://doi.org/10.1016/j.chb.2016.12.081>
- Davis, J. L., & Jurgenson, N. (2014). Context collapse: Theorizing context collusions and collisions. *Information, Communication & Society*, 17(4), 476-485. <https://doi.org/10.1080/1369118X.2014.888458>
- Ennis, R. H.(1987). *A taxonomy of critical thinking dispositions and abilities*. In J. B. Baron & R. J. Sternberg (Eds.), *Teaching thinking skills: Theory and practice*. New York: W. H. Freeman and Company. pp.9-26.
- 平松紀代子(2024)．育児情報源と育児情報の獲得状況に関する一研究—0歳児をもつ母親を対象に一．*家族関係学*，43，65-77.
- 平山るみ・楠見孝(2004)．批判的思考態度が結論導出プロセスに及ぼす影響—証拠評価と結論生成課題を用いての検討．*教育心理学研究*，52，186-198.
- Kahneman, D. (2011). *Thinking, fast and slow*. New York, Farrar, Straus and Giroux.
- 厚生労働省(2023)．令和5年版厚生労働白書(令和4年度厚生労働行政年次報告)．
- 楠見孝・松田憲(2017)．批判的思考態度が支えるメディアリテラシーの構造．*日本心理学会第71回大会発表論文集*
- Kusumi, T., Miura, A., Ogura, K. & Nishikawa, K. (2023). Attitudes toward possible food radiation contamination following the Fukushima nuclear accident: A nine-year, ten-wave panel survey. *Journal of Risk Research*, 26(5), 502-523. <https://doi.org/10.1080/13669877.2023.2181856>
- Liu, Z., Li, S., Shang, S. & Ren, X. (2021) . How Do Critical Thinking Ability and Critical Thinking Disposition Relate to the Mental Health of University Students? *Frontiers in Psychology*, 12 <https://doi.org/10.3389/fpsyg.2021.704229>

- Loudon, K., Buchanan, S. & Ruthven, I. (2016). The everyday life information seeking behaviours of first-time mothers. *Journal of Documentation*, 72 (1), 24-46.
<https://doi.org/10.1108/jd-06-2014-0080>
- Lupton, D. (2016). The use and value of digital media for information about pregnancy and early motherhood: A focus group study. *BMC Pregnancy and Childbirth*, 16 (1), 171.
<https://doi.org/10.1186/s12884-016-0971-3>
- Mertens, E., Ye, G., Beuckels, E. & Hudders, L. (2024). Parenting Information on Social Media: Systematic Literature Review. *Improving pediatric and adolescent health outcomes and empowering and educating parents*, 7, e55372. <https://doi.org/10.2196/55372>
- Moon, R. Y., Mathews, A., Oden, R. & Carlin, R. (2019). Mothers' Perceptions of the Internet and Social Media as Sources of Parenting and Health Information: Qualitative Study., *Journal of medical Internet research*, 21 (7), e14289. <https://doi.org/10.2196/14289>
- 中島千英子・永井由美子 (2020). 母親の育児情報源としての SNS 利用に関する調査. 大阪教育大学紀要 人文社会科学・自然科学, 68, 41-49.
- Plantin, L., & Daneback, K. (2009). Parenthood, information and support on the internet: A literature review of research on parents and professionals online. *BMC Family Practice*, 10 (34).
<https://doi.org/10.1186/1471-2296-10-34>
- Pleck, J. H. (2010). *Paternal involvement: Revised conceptualization and theoretical linkages with child outcomes*. In M. Lamb. (Ed.), *The role of the father in child development* (5th ed., pp. 58-93). Wiley.
- 菅谷明子 (2000). メディア・リテラシー—世界の現場から. 岩波書店
- 住吉智子・脇川恭子・五十嵐真理・田中美央 (2015). 未就学児の保護者のメディア・リテラシーにおける基礎的情報能力に関する研究. 小児保健研究, 74 (4), 498-505.
- Stanovich, K. E., & West, R. F. (2008). On the relative independence of thinking biases and cognitive ability. *Journal of Personality and Social Psychology*, 94 (4), 672-695.
<https://doi.org/10.1037/0022-3514.94.4.672>
- 外山紀子・小舘亮之・菊地京子 (2009). 母親における育児サポートとしてのインターネット利用. 人間工学, 46 (1), 53-60.
- Walker, A. L, Peters, P. H., Rooij, S. R., Henrichs, J., Witteveen, A. B., Verhoeven, C. J. M., Vrijkotte, T. G. & Jonge, A. (2020). The Long-Term Impact of Maternal Anxiety and Depression Postpartum and in Early Childhood on Child and Paternal Mental Health at 11-12 Years Follow-Up. *Frontiers in Psychiatry*, 11. <https://doi.org/10.3389/fpsyt.2020.562237>
- 山本祐輔・山本岳洋・大島裕明・川上浩司 (2019). ウェブアクセスリテラシー尺度の開発. 情報処理学会論文誌, 12 (1), 24-37.
- 山西加織・渡辺俊之 (2017). 幼児の子育てをする母親の不定愁訴と育児感情の特徴—保育機関における子

育て支援のあり方. 女性心身医学, 21 (3), 314-324.